の違いを認めながら、互いを理解することが必要になってきます。
こういった社会の変化に対応しながら、わたしたちは生きていかなければなりません。
どこにいても健康で、快適で、安心できる生活。
いつでも自分の夢に向かって、その能力を高め、自己実現にチャレンジする。
ときには、今まで身に付けた豊かな経験や知識・技術を市民社会の構成員として発揮する。
それぞれが生きがいを持ち、社会の進歩に合わせた新たな知識や技術を身に付ける。
それは若いころに学校で学ぶこともあれば、熟年になってから職場や家庭で身に付けることもあるでしょう。
そう、21世紀は、自らの個性を高め、さまざまな価値観に見合った生活を送るという「生涯学習の時代」なのです。

生涯学習によるまちづくり

2

上手に幸せを感じたい

「生き字引」と言われる人がいます。でも、その人がいなくなって、「いったい、どうしたらいいんだ?」「いるうちに、ちゃんと聞いときゃよかったヨ」。
一人の市民が知識をためこむのではなく、それぞれの生活の必要に応じて学び合い、その学びの成果をまちづくりに生かし、還元させることが、生涯学習の目指すものです。

「ばあちゃんのお漬物、チョーおいしい!」
「今度おしえてあげますよ」
「ありがとう。じゃあ、わたしがパソコン教えてあげるネ」
「あたしにできるかねェ」
少しでも多くの幸せを実感し、生きがいを持てる人生を送るために、市民がお互いに何をするべきか、何をできるのかを問いかけながら、生涯学び続けること。
そうした「幸せ感じ上手」な市民の輪が、留萌に広がることで、生き生きとした活力に満ちたまちづくりに結びつくはずです。

新しい留萌を創る

生涯学習の目的は、「心身を醸成する『学習都市』をめざすまちづくり」にあります。
「萌田さんは、ごみの分別が徹底してますね」
「いやあ、留萌にいたからね。あそこじゃあたりまえだよ」
「ぼくも見習わなくっちゃ」
生涯学習によって、個々人の心が豊かになり、生き生きとした人間形成をし、互いに高め合える地域社会ができれば、「留萌に住んでてよかった」ということになるでしょう。そして、「みんなが留萌に住みたくなる」はずです。

主役はあなたです

一人ひとりが、自己の向上を目指し、互いが教え手、学び手として、共に向上する。
相互学習により、協調性を身に付け、「住みよい地域づくり」を知らず知らずに実践する。
例えば、エアロビクスの先生と生徒。市民植樹祭のお手伝いをする市民と参加する市民。
一人ひとりの市民が主役となれば、まち全体が生き生きとしてきます。

市役所はサポーター

生涯学習によるまちづくりを進めるために、市民の学ぶ意欲を引き出すこと、生涯学習のための事業メニューを提案し、施設や設備などを整えることで、市民が一生現役で学べるように支える。
これが市役所の仕事です。

じゃあ、今度の休みから始めるか

そんなこと言わないで。
今日からできることがあるんですよ。

▼はじめての育児にとまどっているお母さんがいます。
お風呂の入れ方、夜泣きの対応、教えてあげませんか。

▼突然、経理課に配置換えになった営業マン。夜な夜な、学生時代の「会計学」の本を開いて、「アー、だれか教えてくれないかな」。
放送大学もありますよ。

市の生涯学習を担う社会教育主事の早川さんに、この計画についてうかがいました。

――「生涯学習」って何ですか?

「社会が急激に変化している今日、生涯にわたって生きがいのある、豊かな人生を過ごしたいと願う人が多くなってきています。そのため豊かに学んだり、楽しんだりして広く学ぶことへの意識が高まっています。

生涯学習とは、このように自らの意思で生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことです」

――つまり「生涯学習」とは「生きること」ですか?

「人間は生きていく中で、知らず知らずのうちに学習をしています。

例えば、道を歩いていて、花が咲いていれば、その花の咲く時期を学ぶ。なんとなく観ていたテレビの料理番組で夕食のヒントを得る、ニュースで国際情勢を知るなど、机の上で勉強するばかりが学習ではありません。

しかし、もっと豊かな人生を送りたいと考えたとき、人間は目的や意思を達成するために、新たな学習活動を求めます。それが、芸術鑑賞、陶芸や木彫などの趣味的学習、スポーツ、レクリエーション、ボランティア活動など様々な学習活動です。

その市民の意思を持った学習要求に応えてあげるのが市役所の役割だと思います」

――「計画」のねらいは?

「美サイクル館が完成して、ごみの分別収集を始めたとき、市内全域で市民への説明会を行ったことがあります。

会場では、説明する市の担当者と市民とで真剣な話し合いが行われました。結果。市民も環境に関心を持ち、留萌は『リサイクルのまち』になりました。

生涯学習は、市民参加のまちづくりです。

留萌のイメージが変わった瞬間です。市民の学習活動によってまちが変わった良い例です。

このように、生涯学習を通じて、まず市民一人ひとりに充実感のある人生を送ってもらう。その結果として、留萌市の魅力あるまちづくりにつながると思います」

――計画策定のポイントは?

「職員の意識改革です。職員は、自分の仕事を真剣に行い、市民に理解をしてもらっています。周知していています。しかし、視点を市民に変えて見れば、それは学習にほかならないということです。その市役所の仕事を、市民サイドに立って体系づけたということですね」

――最後に、今後の抱負を。

「市民の目を通して市政や暮らしを考えられる市役所になればと。また、市民がそれぞれの目標を持って学んだことを、今度は他の市民に学習の輪を広げる。そういう学習の輪が市内に広がることによって、もっと新しい留萌市が創られていく。そうなるように頑張りたいですね」

▼「タケシがギターを欲しがってるって? もう中学生だもんな」
「あなた、わたしと出会ったころ、ロック・バンドやってたじゃない。親子のふれあいのチャンスよ」

▼「まだ中学だったんワ。最後の『群来』が、この浜に来たときヨ」
「当時の話を聞かせてください。ニシン漁の歴史をまとめるために」
「ああ、いいヨ。なんでも聞いてくれ」

みんなが先生。みんなが生徒。
「どうもありがとう」
「いやいや、いつでもおいで」
留萌がそんなまちになる。

「留萌市生涯学習推進計画」「生涯学習」のお問い合せはこちら。
留萌市教育委員会
生涯学習課
電話 42-0435
FAX 43-6312